

在宅医療・介護連携推進事業：住民啓発（事例）

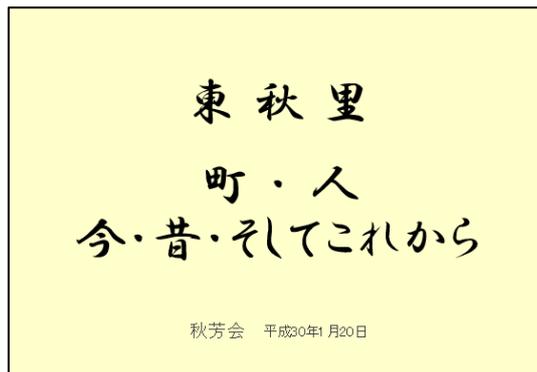
秋芳会新年会（東秋里町内会老人クラブ）

テーマ「町・人・今・昔・そしてこれから」

日時：平成30年1月20日（土） 11:00～11:30（30分）

場所：地区集会場「憩いの家」

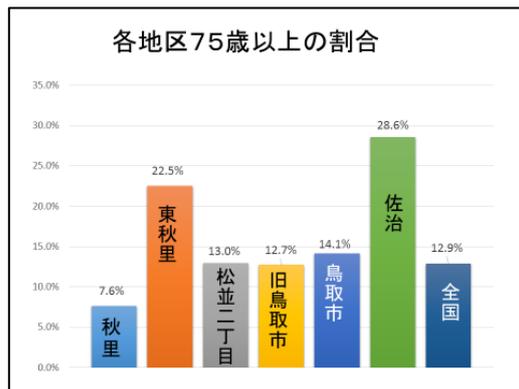
参加者：秋芳会会員 28名



【内容】

- ◆ 東秋里周辺地域の変貌、75歳以上高齢者の割合などで、今・昔を再確認。
- ◆ シルバー川柳で、高齢者の「あるある」を確認。
- ◆ さいごは、東部地区在宅医療介護連携推進協議会作成のACPパンフレットでこれからを考える。

（概要1）



認知能力

- ・加齢によって必ずしも全面的に衰えるわけではない
- ・短期間、ものを記憶する力「短期記憶能力」は年齢とともに低下してしまう。
- ・日常問題を解決する能力や言語（語彙）能力は、年齢とともに磨かれ、向上していくと言われている。

東秋里の住宅地が整備され（40年前）、同時期に家を見て住人になった人が多く、高齢化が進んでいる町内会であることをグラフで再認識しました。また高齢だからすべての認知能力が衰えるわけではない話しにも、皆さん納得されていました。

（概要2）

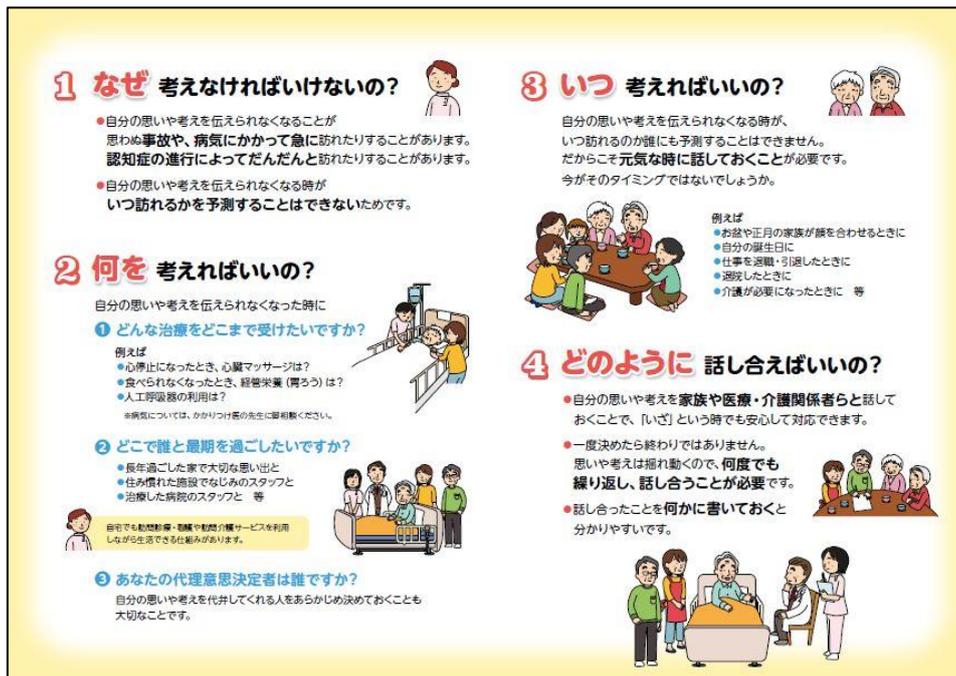
全国有料老人ホーム協会が毎年募集しているシルバー川柳を読み「みんなが思いあたる」句に笑ったり、頷いたり、うなったりしました。

(概要 3)



「さいごまで自分らしく豊かな人生のためのわたしたちの心づもり」のパンフレットを、1項目ずつ読みました。自分のため、家族のために話し合う必要があることを考えていただきました。また、ACPという言葉が新聞の一面にも出ていた話は、興味深そうでした。

参加者で話し合う時間は取れませんでした。ACPパンフレットを追加で希望される方もあり、関心を持っていただけた会でした。



(講師：東部医師会在宅医療介護連携推進室・廣山恵看護師)